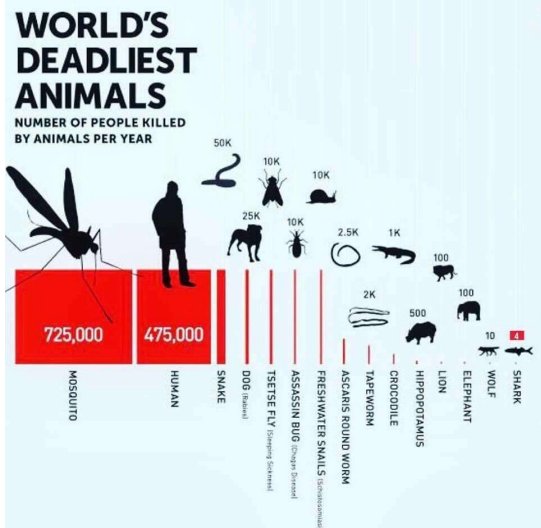


## 地球上で最も人間の命を奪っている殺人生物とは？



地球上で最も人間の命を奪っている殺人生物をご存知ですか。第5位ハエ、第4位犬、第3位蛇、第2位人間、第1位蚊という順番です。2位の人間というのには驚きましたが、戦争や交通事故等考えれば納得の結果です。その人間より多くの人間を殺しているのが蚊です。蚊は、病気を運び人間の命を奪います。中でも最悪なのはマラリアで、毎年60万人以上がマラリアによって死んでいます。死亡に至らなくてもマラリアにかかった人は生産能力を無力化され、毎年失われる生産性は数十億ドルを超えられています。

## 蚊媒介感染症とは

蚊媒介感染症……「病原体(ウイルス・原虫)を持った蚊がヒトを刺すことのできる感染症」

日本で発生、あるいは持ち込まれる可能性の高い疾患としては、ウエストナイル熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、デング熱、日本脳炎、マラリアの6疾患があげられます。

疾患名	媒介蚊 (感染経路)	発生地域	潜伏期間	主な症状	備考
<u>ウエストナイル熱</u>	アカイエカ、チカイエカ、ヒトスジシマカなど (鳥→蚊→人)	アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、西アジア、米国など	2~6日	発熱、頭痛、背部痛、筋肉痛、筋力低下、食欲不振、発しん	日本国内での感染例は認められていないが、近年まで報告のなかったヨーロッパやアメリカなど西半球に1990年代中頃から流行が発生している。
<u>ジカウイルス感染症</u>	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (人→蚊→人)	中南米・カリブ海地域、オセアニア太平洋諸島、アフリカの一部(カーボベルデ)、タイ	2~12日 (多くは2~7日)	軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、結膜炎、疲労感、倦怠感など	日本国内での感染例は認められていない。ギラン・バレー症候群や小頭症との関連が疑われている。性行為による感染例あり。
<u>チクングニア熱</u>	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (人など→蚊→人)	アフリカ、南アジア、東南アジア	3~12日 (多くは3~7日)	急性の発熱と関節痛、発しん	日本国内での感染、流行はないが、海外で感染した輸入症例が報告されている。
<u>デング熱</u>	ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど (人→蚊→人)	東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国	2~15日 (多くは3~7日)	発熱で始まり、頭痛、眼高痛、筋肉痛、関節痛	非致死性の熱性疾患であるデング熱と、重症型のデング出血熱やデングショック症候群の2つの病態がある。
<u>日本脳炎</u>	コガタアカイエカ (豚→蚊→人)	日本、中国、東南アジア、南アジア	6~16日	発熱、頭痛、吐き気、おう吐、めまい、意識障害	感染しても日本脳炎を発病するのは100~1,000人に1人程度であり、大多数は無症状に終わる。
<u>マラリア</u>	ハマダラカ (人→蚊→人)	東南アジア、アフリカ、中南米	7~40日	発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛	マラリア原虫の種類によって、熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリア

# 蚊媒介感染症の予防法は？

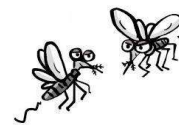


## 予防のポイント

- ・ 長袖シャツ、長ズボンなどを着用し、肌の露出をできるだけ避けましょう。
- ・ 素足やサンダル履きはできるだけ避けましょう。
- ・ 必要に応じてディートやイカリジン配合の虫除け剤などを使用しましょう。

## 蚊を減らすポイント

- ・ 幼虫(ボウフラ)は、雨水マスや植木鉢、古タイヤなど比較的少量の水たまりに発生しますので水たまりができないように注意しましょう。



## 流行地へ渡航される方

- ・ できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう。
- ・ 帰国後は症状の有無にかかわらず、虫よけ剤の使用など蚊に刺されないための対策を、潜伏期間である2週間程度は特に注意を払って行うことを推奨します。
- ・ 妊娠初期の母体のジカウイルス感染は、胎児の小頭症の発症リスクになります。流行地に滞在中と入国後6ヶ月(パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中)は、症状の有無に関わらず、コンドームを使用するか性行為を控えましょう。



## 医療機関での感染対策

- ・ 血液・体液に触れるときは手袋・エプロンを着用し、処置後は手洗いをする。
- ・ 体液による眼の汚染のリスクがある時にはゴーグルやフェイスシールドなどで眼を保護する。
- ・ 患者血液で環境が汚染された時は、水拭き後に0.1%次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。
- ・ 患者が蚊に刺されないようにベープなどを準備する。



日本脳炎にはワクチンがあります。

3歳の時に2回 4歳の時に1回、9歳の時に1回 計4回予防接種します。

平成17～21年度に積極的な接種勧奨が控えられたため、その頃3歳、4歳、9歳だった子供は必要な回数の予防接種を受けていない可能性があります。該当する人は予防接種歴を確認しましょう。